

さくらみ川



第四十二号

平成十四年七月十五日

熱日高彦神社社務所

電話〇三三四 六二〇二四一

地元氏子たちの手で

白山姫神社修復事業完了

竣工奉告祭は夏祭にあわせて斎行

懸案でありました境内社白山姫神社修復が、作善工務店をはじめ旧鎮座地館島田氏子の方々の奉仕によりかなえられました。

白山姫神社は天台宗島田寺（現在廃寺）と共に、かつて島田字瀬上（小野政実氏宅の東）にあり、白山社、白山権現などと称され、早くから神仏混交の対象になっていました。明治政府の方針で明治四二年熱日高彦神社に合祀。社殿も今のところに移築して据えられ、拝殿が今の神輿堂です。

現本殿は天和二年（一六八二）四月五日、拝殿は寛政一二年（一八〇〇）建立。近年床下の腐食が目立ち、修復が急がれておりました。

島田では合祀後も白山講を結んでいて、毎年代参しておりました。夫婦和合、産育の神としての信仰を今に繋いであります。

工事は腐食部分を更新・切捨て、その分基礎を盛り上げました。作善工務店社長佐藤善通氏が無償で請負い、弟の善昭氏が棟梁を勤めました。五月二十四日起工式、七月二十四日が遷座祭、八月五日竣工奉告祭予定。総代以外では小野良雄、小野政実、桑島静雄、戸村巧の方々が奉仕されました。

夏祭は8月5日 涼やかな奉納あんどんと 頭上に上る花火をご堪能下さい

日程 (8月5日 月曜日)

午後2時	あんどん掲揚 触れ太鼓
夕刻	あんどん点灯
5時	夏季例祭 祭典
6時	白山姫神社竣工奉告祭
6時半	神賑行事 (巫女舞 神楽)
8時半	打上げ花火 その後終了



神賑 (しんしん) 行事

巫女舞 神楽 (神楽会 2幕 こども 3幕)
奉納あんどん掲揚 奉納打上げ花火

振舞い

お神酒 焼き鳥 生ビール
かき氷 ポップコーン

振舞いは有志の方々の篤志で行われます

夏祭の季節になりました。隈東地区だけでも七月三十日の高魂神社、八月四日の香取神社、五日に当社、六日は金津七夕、七日に山家和霊神社、十一日に住吉神社、十五日に三嶋神社など、夏祭が目白押しです。夏祭も春祭同様、家内安全や秋の豊かなみのりを願って行われます。特に夏は害虫や疫病が多発します。神様の力を頂いてそれらをはらい、人も作物も日々健やかに過ごして、結びの神の働きで秋の収穫につなげてゆくという意味もあるのでしょうか。

また、盆行事に見られるように、この月は先祖の御霊をお迎えする季であります。仏教が伝わるはるか昔よりそれは日本人の大切な慣わしだったようです。この時期に、祖霊を氏神として祀る鎮守のお祭が設定され、氏子こぞってこれにお参りするのにも至極当然のことと言えます。

日中の暑さが和らぐ時刻、心地よい夜風に吹かれながらご家族そろって、「どうして夏にお祭りがあるのかしら？」などと子供と話しながら、石段を登ってみてください。

今年も枝野小学校・幼稚園の子供たちが主に奉納する二百個ほどの紙あんどんが参道を照らします。巫女舞や神楽が御神前を賑わし、有志の皆さんによる振舞い、昨年からは始まった奉納花火も祭りに華を添えます。

春季例大祭盛大に斎行

新体制神輿渡御成功裏に



本年の春の例大祭は、数十年に一度という陽気のなか、大勢の人が参拝し盛大に斎行された。特に、新しい体制で臨んだ神輿渡御は担ぎ手奉仕者が延べ六十人を超え、総代と神輿世話人の地道な勧誘努力が見事に実った結果となった。関係各位そして参加いただいた皆さんに感謝申し上げます。早い時刻にもかかわらず、発幸の頃には

十分な人数が揃った。晴天のもと神輿はおさがりになり、例年になく満開の桜の下、はぐくみ学園神輿、子供神輿と連行する様に多くの参拝者がカメラのシャッターを切った。暖かい日だったが人数が多く交代が効き、ペースが落ちることなく予定時間どおりに進んでいった。

一旦神社にお引つ込みになった際には、担ぎ手からの提案で昭和初期の写真風景（前号表紙参照）を再現しようということになり、並んだ日高社、香取社の両神輿の前に両方の担ぎ手が並んで記念撮影をした。呼びかけに応えてくれた高校生からベテランまで多くの人の協力で、神輿渡御は成功した。新しい試みは始まったばかりだが、今年の経験を次に生かせるよう進めて行きたい。

総代、神輿世話人合同

春季例祭神輿渡御反省会開催

七月十三日、総代と神輿世話人合同で春祭神輿渡御の反省会が開催された。新体制の効果や課題を話し合った。

- ・ おおよそ内容は以下の通り。
- ・ 不在の家もあつたがおおよそ回れた。
- ・ 勧誘のチラシは効果的だった。
- ・ 公の場や多くの機会に常に勧誘すべき。
- ・ 土・日の日程だと誘いやすい。



- ・ 六日は動かないと思っている。人の集まりは神社の盛り上がりにかかっている。
- ・ 先ず来年（日曜）までやってみて面白さをわかつてもらおう。魅力あるお祭であれば平日でも人は集まる。
- ・ 昨年に比べPTAの父母も継続して担ぎ手に加わってくれた。二十代も協力的にない手を育てる意識が大切。
- ・ 若者とベテランが一緒に担ぐのが良い。
- ・ しかし背が合わなくてかなり辛い。
- ・ 組み合わせを世話人が指導すること。
- ・ ここだけでは意見も偏る。機を見て担いだ人達に集ってもらいバーベキューでもしながら意見交換をしては。（以上）

お日高さんの自然

秋の七草



あさがおの花』とよんだ。

萩は、山麓の山道に多く、昔の人々は秋の代表花として賞用した。

くずは、よく見ると花は美しいが大型のつる植物で親しみにくいし、一度繁茂すると扱いにくい。しかし、先人は、クズ粉を葛根湯として服用したり、蔓で綱やツツラをつくり生活用品として利用されてきた。今では外国で土手や堤防などの土砂くずれを防ぐために利用されているという。

尾花は、ススキの花である。なでしこは、山の草原や川原に生え、カワラナデシコが一般的な名である。

春の七草

の選定より五〇〇年も昔、今より一三〇〇年前には既に秋の七草は選定されており、山上憶良は『萩が花、尾花、くず花、なでしこの花、おみなえし、また藤袴

おみなえし(女郎花)は、色や姿が優しいので女性にみたてられこの名がついた。よく似た仲間のオトコウシは、花が白く草丈も高い。

藤袴は、香気があり髪の毛や衣服につけて身を浄めたという。角田には自生しないが、よく似た仲間のサワヒヨドリが生えている。

あさがおは、その頃は今のアサガオはまだ大陸から伝えられていないので、キキョウの事だろうと言われている。

食用を目的とする春の七草に対して、秋の七草は「花を愛でる」ために選ばれており、昔びとの鑑賞眼と、好みが感じられ、のどかで平穏な世相がしのばれる。

やがて秋の七草といくつかの行事が一体化してきたが、仲秋の名月にダンゴやススキなどを供える行事や、お盆花として秋の七草を飾る習慣はいつまでも受け継がれていって欲しいものである。

(一四・七・二 小島記)

社頭 あれこれ

電力ホールで日高神楽を披露

去る六月十二日、仙台市電力ホールを会場に、宮城県神社総代連合会並神社関係者大会」が開催され、そのオープニングで島田神楽保存会が日高神楽を披露した。大会に文化財級の芸能を招くようになった三年目、早くも当神楽が招待されたのはその評価の高さ故であろう。当日の演目は「恵比

寿舞」。五百人を超える参加者から盛大な拍手を頂き、神社庁長より感謝状を頂戴した。

社頭暦

七月 一日 月次祭

二十日 海の日

八月 一日 月次祭

五日 神社例祭 白山姫神社竣工祭

七日 七夕祭り

十三、十五 日 祖霊祭

十五日 忠魂碑慰霊祭

九月 一日 月次祭

編集後記

また八月が来ます。祭の月、盆の月と同時に、原爆・終戦、そして靖国参拜で大騒ぎする月です。戦争の恐ろしさを後世に伝えることは、当事者であった者の責任であります。しかし国を守るといふことは、また別であります。国際社会の相克は今熾烈であります。平安時代、貴族が武士を雇って莊園を守らせました。雇われた武士はその力をふるってやがて武家中心の社会を作ります。今日本は米国に国の守りを委ねております。その結果として今があります。原爆や無差別爆撃は誰がしたのですか。戦争を起こさざるを得ないようにしたのはどの国ですか。国際法を無視してA級戦犯を作り出したのはだれですか。そのことを国際社会にはつきり言えないのはなぜでしょうか。

「やぐらみ川」<http://hitaka.org>で読めます